

中期経営計画2030

基本方針

経済価値と社会価値を両輪として企業価値向上を図り、電子部品メーカーとして存在意義のあるポジションを目指す

QCD強化を軸とした経済価値向上 (事業継続と拡大、企業成長力の強化)

ビジネスモデル

「電子部品事業」を基盤とし、素材から開発し、技術力の高さという強みを活かして高付加価値かつ高品質の商品を安定的に創出し続ける

コア事業のMLCCIは確固たるポジションを目指す
インダクタを第二の柱とし、バランスのとれた企業体質を構築する

Q【開発力】 各市場における最先端ゾーンを着実に手掛け、高付加価値商品を中心としてシェアを拡大する

C【収益力】 商品の価値が適切に評価され、安定的な利益創出にこだわった事業を展開する

D【供給力】 能力拡大を確実に実行し、災害や地政学的なリスクが発生しても顧客への供給を止めないボーダーレスな生産体制を実現する

環境・社会活動を通じた社会価値向上 (社会、地球の持続性向上)

サステナビリティアクション

企業活動全体を通して
「サステナブル・ウェルビーイング」の実現を目指す

社会課題の解決

E【環境】 事業活動と一体となったGHG削減活動、再エネ・再資源の活用を強化し、循環型社会の実現に貢献する

S【社会】 安全第一を事業活動の根幹とする
人的資本経営の着実な推進によって従業員の価値を高め、力が発揮できる場を醸成する

社会課題の創出

E/S【環境・社会】 健康・安全・安心な市民生活に貢献する商品やソリューションを生み出し、世の中に貢献する

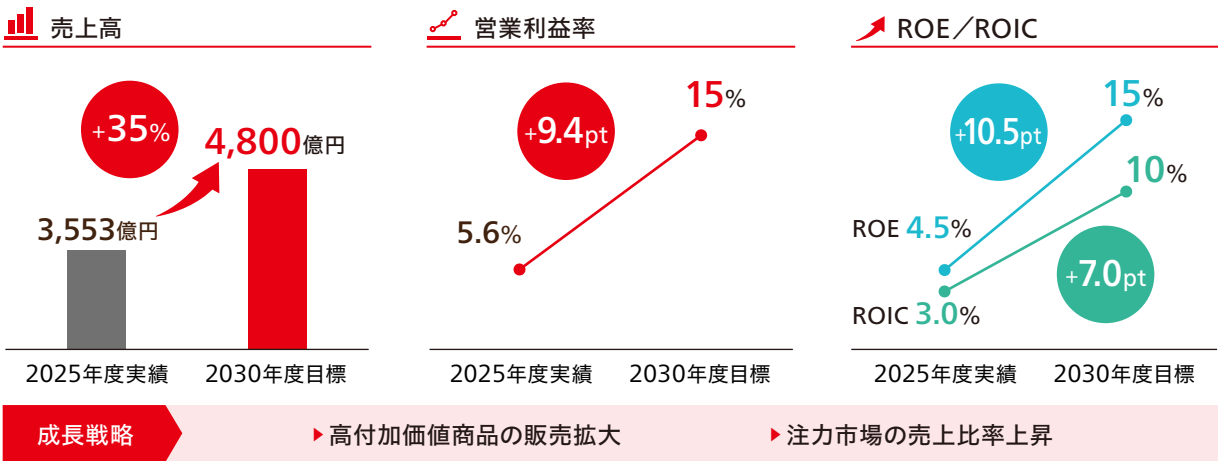
G【ガバナンス】：経営の安全性を向上するとともに、企業活動を支え、ステークホルダーからの信頼を高めるガバナンスを追求する

経営指標

経済価値は中期経営計画2025で実現できなかった目標の達成と、売上高、営業利益額で過去最高の更新を目指します。
社会価値は労働災害と従業員のウェルビーイングに関する新たな目標を設定しました。

経済価値

2030年度目標	
売上高	4,800億円
営業利益率	15%
ROE	15%
ROIC	10%



社会価値

		目標	達成時期	掲載ページ
環境	カーボンニュートラル	達成 (Scope1+2)	2050年度	環境への取り組み
	再生可能エネルギー導入率	100%	2040年度	
	GHG Scope1+2排出量	2020年度比 42%削減	2030年度	
	GHG Scope3排出量	2021年度比 25%削減	2030年度	
社会	重篤労働災害発生件数	ゼロ (2026-2030年度)	2030年度	安全衛生
	HRウェルビーイング指数	改善率 10%以上	2030年度	人材戦略

製品別の売上計画

太陽誘電は、高付加価値商品の販売拡大により、各製品区分とも売上高の増加を見込んでいます。

注力すべき市場の売上比率は、2030年度に60%を目指します。

コンデンサ

2025年度実績 **2,518**億円

1米ドル=149.99円

2030年度目標 **3,140**億円

1米ドル=140円前提

取り組み

- AIサーバー向けで小型・大容量化の需要に応える当社の高付加価値商品の販売機会拡大
- 自動車向けはADAS搭載比率の上昇や高度化に伴い、員数の増加が安定して続く見込み

インダクタ

2025年度実績 **643**億円

2030年度目標 **1,130**億円

取り組み

- 給電方式の変化に伴いAIサーバー向けパワーインダクタの需要が大幅に増加
- 自動車向けはADAS搭載比率の上昇や高度化に伴い、員数は増加傾向を辿る
- 通信機器向けは小型化、大電流化により、メタル系商品が高シェアを維持

その他

2025年度実績 **392**億円

2030年度目標 **530**億円

取り組み

- 自動車の48V化の進展などにより、ハイブリッドアルミニウム電解コンデンサ(ハイブリッドコンデンサ)の売上増加
- 通信用デバイスは高信頼性を活かして自動車向けの拡販、新市場へ参入
- 新事業・新商品の売上拡大を目指す

注力すべき市場の 売上比率

情報インフラ・産業機器
+
自動車

2025年度実績 **54%**

2030年度目標 **60%**